

PTA 祭ボランティアについて

R5,4月6日

釧路市立芦野小学校校長 高島 昌之

学校教育は、目指す姿を明確にしてそこに向かっていろいろな取り組みを進めています。芦野小学校は、1990年の開校以来、「自分から学ぶ子」「広い心の子」「じょうぶなからだの子」を目指す教育目標を学校や家庭、地域と共有してきました。この教育目標を達成できるように父母と先生ひとりひとりが協力していく組織をPTAと呼んでいます。昭和、平成、令和と時代が変わる中でPTAの在り方もいろいろな意見が交わされています。共働きの割合が高くなる中で、活動内容についての見直しが叫ばれています。コロナ禍が終息した時に活動状況を元に戻すのか、再構築するのかという議論が各地で起きています。

学校行事やイベントは、それを支える協力者がいないと成立が難しいです。実際、イベントをなくしたり行事のスリム化が全国各地で進んでいます。コロナ禍が猛威を振るった3年間は、いろいろな行事が中止になり、子どもたちにとってストレスフルな日常が当たり前になっていました。これを機会と捉えて、学校現場では効率化を求めて学校行事の削減や縮小を進めている事例が増えています。

脳は楽しいことを好みます。非日常な経験は脳の活動を活発化させて、意欲的になったり創意工夫を考える力がついてきます。昨年度、PTA 役員の皆さんが中心になって、子どもたちに少しでも楽しい時間をあげたいとの思いで「PTA 祭」を工夫して実施してくれました。子どもたちは、とても喜び卒業文集で「小学校6年間で楽しかったもの」の1位にあげていた子どももいました。

子どもたちの自由闊達な発想や興味関心を持って何事にも取り組むチャレンジ精神は、わくわく感のある時間や損得を抜きにした“楽しもう精神”で協力し合う大人たちの姿を見て育まれていきます。運動会やPTA祭のような行事やイベントを継続していきたいなと思っています。

学学校行事やイベントをどうやったら楽しくなるか? 「これやったら子どもたち盛り上がるな～」などと考えながら実施をしていきたいと考えています。「PTA 祭」のボランティアを募集します。このボランティアに登録された方は、PTAの委員会への所属は免除されます。やらなきゃいけない義務感ややらされる感で決めるのではなく、自分が子どもたちの笑顔に関わるんだ! という粋に感じた思いで集まったスタッフは、にじみ出る楽しさが子どもたちに伝わります。粋に感じて動く子供たちが増えていきます。子どもたちの喜ぶ姿を想像してニヤニヤしながら応募してみませんか?